

# 東日本大震災から7年 ~ 各界からの提言

## 「人間の復興」担う人材育成

東洋システム株式会社代表取締役

庄司 秀樹氏



震災で人生観が変わりました。さまざまな人の行動を見て、お手上げしたい姿に出会いました。震災が起きないと分からないことがたくさんあり、本当に勉強になりました。復興期間があと3年しか残っていないことに危機感を抱いています。今の倍以上の速度で復興に取り組みたいと、復興期間が終わった後の経済状況に大きな差が出てしまっています。大企業を誘致し、地元に住む若者が安心して家族と生活できる環境づくりが本場の復興だと思います。震災後から取り組んでいるLRA & MIRA 1 試乗体験は今年で7回

## 地元の環境づくりが大切

会川鉄工株式会社代表取締役

会川 文雄氏



大震災、原発事故が発生し、エネルギーの転換期を迎えた今こそ、原子力に代わる新たな産業が必要だと感じています。弊社は創業以来、炭鉱や原発関連事業など日本のエネルギー分野を支

## 風力発電の製造拠点目指す

える製品を造ってまいりました。震災後は金属加工の技術とノウハウを生かし、風力発電の風車部分を支えるタワー製造に新規参入しました。風力発電に必要な部品数は自動車並みに多く、定着すれば大規模な産業となります。弊社が先駆けとして市場を拡大し、将来は、国産の風力発電製造拠点として浜通りから世界

へ発信したいと思っています。昨年7月には日本初の風力発電タワー専用工場を新設し、小型と中型のタワーを製造しています。今後はさらに受注を増やし、より効率的な発電が見込める大型や洋上風力のタワーも生産したいと考えています。また、ものづくりの技術を活用し、介護現場で役立つロボット開発にも着手しています。また発電所だけではなく、地域に貢献できるようなところから挑戦し続けてまいります。

七日町通りまちなみ協議会会長

渋川 恵男氏



毎年、東日本大震災が発生した日が近づくたびに、私は会津が西軍によって壊滅的な打撃を受けた戊辰戦争を思い浮かべます。戊辰戦争150周年の今年はおおさらです。「街道をゆく」/白河・会津のみち」

## 歴史に学ぶ賢者でありたい

作家司馬遼太郎氏は戊辰戦争の状況を歴史の中で、都市一つがこんな目に遭ったのは会津若松市しかない」と断言しています。会津若松市を原発事故に足踏られた「福島県」に置き換えてはどうか。作家半藤利利は「歴史に」何を「学ぶ」のか(2)「いまブリー」新書の中で「愚者は経験に学び、賢者は歴史に

学ぶ」との名言を紹介しています。つまり自分の経験でしか価値判断のできない愚者は想像力に欠け、未来を見通せないということです。戊辰戦争後、近代化の名のもとに軍国主義に走った日本は中国に攻められ、太平洋戦争へと突入しました。戊辰戦争から150年、原発事故から7年、私たちは過去の過ちを胸に刻み、福島県にどのような地方創生の未来図を描くのか、歴史に学び、次世代に伝えていかなければなりません。

伝統会津ソースカツ丼の会長

中島 重治氏



2月に東京で本県のイベントがあり、県内の酒造業、食材や農産物の生産者が集結し、自慢の品をアピールしました。相手は福島ブランドを積極的に使っておられる飲食や食品販売の方々に強い絆を感じました。

## 福島から百年の木植えよう

昨年、「会津地域世界農業遺産推進協議会」が発足しました。会津には「会津農書」という会津の四季や、自然環境を生かした伝統農法や生物多様性が守られる土地利用を体系的にまとめた書物があります。今、世界中で「世界農業遺産」への関心が高まっており、新たなビジネスチャンスとしても注目を集めています。

す。一日も早い登録を願います。先日、会津大学および短大の学生さんたちと、交流会を持ちました。藤井靖史先生のご尽力によるものでした。新年度に新入生にも参加してもらい、ソースカツ丼研究会を立ち上げてもらう予定です。本県には世界に誇れるものがたくさんあります。しかし、みなさんがパラスを出し合い、行動を起こし、福島から百年の木を植えましよう。